

2016 年度 第一内科卒業試験 (2016 年 8 月 29 日、月、13 時～、90 分)

*解答は全ての問題において、a～e の中より一つ選んで答えなさい。

【スライド問題】

1. 73 歳男性。下痢と発熱と腹痛を主訴に当科受診。大腸内視鏡画像を示す。正しいもの
を選べ

- ① 抗生物質の内服歴を聴取する必要がある
- ② *Clostridium difficile* が関与している場合が多い
- ③ 病理組織像では非乾酪性類上皮肉芽腫が特徴的である
- ④ 抗 TNF α 抗体が治療薬として用いられる
- ⑤ メトロニダゾールが治療に用いられる

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

2. 56 歳女性。昼食の数時間後から上腹部痛が出現したため救急外来を受診した。上部消化管内視鏡検査にて胃内にスライドに示す所見を認めた。正しいものを選べ

- ① 抗原虫薬の内服治療が第一選択である
- ② 早期胃癌の原因として頻度が高い
- ③ 生肉の摂取と関連が深い
- ④ 内視鏡的摘出術が治療となる
- ⑤ 魚介類の生食と関連が深い

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

3. 65 歳男性。アルコール依存症にて通院中の患者。上部消化管内視鏡検査にて食道にスライドに示す所見を認めた。正しいものを選べ

- ① EMR (内視鏡治療) の適応となる
- ② つかえ感などの通過障害の症状で発見されることが多い
- ③ EVL (内視鏡治療) の適応となる
- ④ 門脈圧亢進症が基礎疾患となる
- ⑤ 若年で癌化する症例が多い

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

4.スライド参照

5.スライド参照

6. 62 歳男性。健康診断で膵嚢胞性病変と主膵管拡張を指摘された。精査目的のため施行した ERCP で十二指腸 Vater 乳頭にスライドの所見を認めた。最も考えられる疾患を 1 つ選べ

- a.膵管内乳頭状粘液腫
- b.膵仮性嚢胞
- c.漿液性嚢胞腺腫
- d.粘液性嚢胞腺腫
- e.リンパ上皮性嚢胞

7. 内視鏡的膵管造影でスライドに示す所見を認めた。最も考えられる疾患を 1 つ選べ

- a.慢性膵炎
- b.膵癌
- c.自己免疫性膵炎
- d.膵内分泌腫瘍
- e.膵管内乳頭状粘液腫

8. 34 歳、男性、同性愛。生来健康、医療機関への受診歴なし。2 週間前から咳嗽、発熱、昨日より呼吸困難感出現。治療薬として適切なものを選べ

- a.ステロイドパルス療法
- b.ST 合剤(バクタ)
- c.カルバペネム抗生剤
- d.ペニシリン大量療法
- e.リボ化アムホテリシン B

9.74 歳、男性。1 年前から全身倦怠感出現。WBC $3700/\mu\text{L}$ 、Hb 6.1g/dL 、Plt $10.5\times 10^4/\mu\text{L}$ 、TP 4.9g/dL 、ALT 40IU/L 、Ca 9.5mg/dL 、Cre 3.1mg/dL 。骨髓穿刺施行。診断は何か

- a.血球貪食症候群
- b.赤白血病
- c.多発性骨髓腫
- d.ホジキンリンパ腫
- e.固形癌の骨髓転移

10.61 歳、女性。3 か月前から労作時呼吸困難感出現。紫斑認めず。WBC 1100/ μ L (Neuro 20%)、Hb 5.3g/dL、Plt 1.5×10^4 / μ L、TP 6.9g/dL、ALT 23IU/L、Ca 9.8mg/dL、Cre 0.9mg/dL、CRP0.1mg/dL。骨髓穿刺施行。まず行うべきことは

- a.広域抗生剤投与
- b.血小板輸血
- c.酸素吸入
- d.赤血球輸血
- e.顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)製剤投与

【一般問題】

1. 食道癌の治療に関する記載で、正しいものを選び

- ① 粘膜下層浸潤癌は内視鏡治療の絶対適応である
- ② 日本では食道癌の病理組織は腺癌が多い
- ③ 欧米では食道癌の病理組織は腺癌が多い
- ④ 食道癌は化学放射線療法が有効であることが多い
- ⑤ 食道扁平上皮癌は高齢の女性に多い

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

2. 肝硬変で通院中の患者が吐血を主訴に来院した。まず行うべきことはなにか

- ① 緊急血液検査
- ② 緊急上部消化管内視鏡検査
- ③ Sengstaken-Blakemore チューブの挿入
- ④ 腹部血管造影
- ⑤ 血液型検査

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

3. ヘリコバクターピロリ感染症に関して正しいものを選び

- ① 胃癌の原因である
- ② 経口感染が主要感染経路である
- ③ 日本では高齢者ほど感染率が高い
- ④ 30 歳代に初感染をする場合が多い
- ⑤ 胃 GIST の原因である

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

4. バレット食道癌に関して正しいものを選び

- ① 粘膜下層剥離術(ESD)は内視鏡治療法の一つである
- ② ヨード染色法はバレット食道癌の発見に有用である
- ③ バレット食道癌は組織学的には扁平上皮癌である
- ④ 食道扁平上皮癌と比べて飲酒や喫煙との関連が深いと考えられている
- ⑤ 好発部位は食道胃接合部である

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

5. 逆流性食道炎に関して正しいものを選び

- ① プロトンポンプ阻害薬が治療に使用される
- ② カルシウム拮抗薬が治療に使用される
- ③ アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬が治療に使用される
- ④ 亜硝酸剤が治療に使用される
- ⑤ ヒスタミン H₂ 受容体拮抗薬が治療に使用される

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

6. 吐血の原因となる頻度の高い疾患を選び

- ① マロリーワイス症候群
- ② 逆流性食道炎
- ③ 十二指腸潰瘍
- ④ 胃脂肪腫
- ⑤ 胃底腺ポリープ

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

7. 食道アカラシアに関し正しいものを選び

- ① 診断には食道内圧測定が有用である
- ② 食道癌の発生と関係がある
- ③ 下部食道括約筋の弛緩不全を認める
- ④ 診断には 24 時間 pH モニタリングが有用である
- ⑤ プロトンポンプ阻害薬が治療に用いられる

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

8. 内視鏡下粘膜生検が診断に有用なのがどれか

- ① 胃静脈瘤
- ② 転移性胃腫瘍
- ③ ヘリコバクターピロリ感染胃炎
- ④ 胃腺腫
- ⑤ 胃癌の病期診断

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

9. ヘリコバクターピロリ除菌療法が有用である疾患を選べ

- ① 早期胃癌
- ② 特発性血小板減少性紫斑病
- ③ 慢性胃炎
- ④ 胃 MALT リンパ腫
- ⑤ 進行胃癌

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

10. 胃癌について正しいのはどれか

- ① 隆起の明らかな早期癌をⅠ型という
- ② 早期癌Ⅱ型は2種類に分類される
- ③ 早期癌の中ではⅢ型が最も多い
- ④ 遠隔転移先の臓器としては脳の頻度が高い
- ⑤ びまん浸潤型の進行癌は未分化型胃癌であることが多い

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

11. 早期胃癌に関して正しいものを選べ

- ① リンパ節転移を認めないものを早期胃癌とする
- ② 内視鏡治療の絶対適応は2cm未満の分化型粘膜内癌である
- ③ ESDは早期胃癌の内視鏡治療の一つである
- ④ 早期胃癌では化学療法が治療法の一つである
- ⑤ 早期胃癌では放射線療法が治療法の一つである

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

12. 潰瘍性大腸炎より Crohn 病に多い所見、症状はどれか

- ① 粘血便
- ② 痔瘻
- ③ 狭窄
- ④ 上部消化管病変
- ⑤ 中毒性巨大結腸症

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

13. 潰瘍性大腸炎に関する記載で正しいのはどれか

- ① 病歴の長い患者は大腸癌の高危険群である
- ② 炎症は大腸粘膜の全層に及ぶことが多い
- ③ 小腸にも病変を認めることが多い
- ④ 内視鏡下生検では陰窩膿瘍がみられることが特徴的である
- ⑤ ステロイドが治療に用いられる

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

14. 適切な組合せはどれか

- | | |
|------------|-----------------------------|
| ① 逆流性食道炎 | ー プロトンポンプ阻害薬 |
| ② 大腸癌多発肝転移 | ー 化学放射線療法(CRT) |
| ③ 胃潰瘍 | ー カルシウム拮抗薬 |
| ④ クローン病 | ー 抗 TNF（腫瘍壊死因子） α 抗体 |
| ⑤ 潰瘍性大腸炎 | ー 免疫抑制剤 |

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

15. 癌の発生と関連が深い疾患を選べ

- ① 慢性胃炎
- ② 家族性大腸腺腫症
- ③ 虚血性大腸炎
- ④ 過敏性腸症候群
- ⑤ 大腸憩室症

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

16. 正しいのはどれか

- ① 正常肝臓では 1 日に約 300mL の胆汁が生成される
 - ② 胆汁酸は肝細胞においてコレステロールから生合成される
 - ③ Couinaud 分類では肝臓を 8 つの亜区域に分ける
 - ④ 肝外側区域の静脈血は主に中肝静脈に流入する
 - ⑤ 胆汁酸塩は回腸で約 50% が再吸収される
- a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

17. 日本における C 型慢性肝炎について誤っているのはどれか

- a. 血中ウイルス量は肝炎の進展度合いとは相関しない
- b. 直接作用型抗ウイルス薬による治療効果は 70% 前後である
- c. 血中 AFP 値が 10ng/mL を超えるとそれ以下に比べて肝発癌を生じやすい
- d. 血小板の低下は肝線維化の進行を示していることが多い
- e. AST/ALT は 1 を超えると肝病変の進行例が多い

18. 腹部超音波検査所見の組合せで誤っているのはどれか

- a. 肝細胞癌 — nodule in nodule
- b. 転移性肝癌 — network pattern
- c. 肝血管腫 — chameleon sign
- d. 肝のう胞 — posterior echo enhancement
- e. 閉塞性黄疸 — parallel channel sign

19. 日本における B 型肝炎について正しいのはどれか

- a. 初発感染かキャリアからの発症かの鑑別には HBc-IgM 抗体値が有用である
- b. 若年者の急性 B 型肝炎ではゲノタイプ C が増加している
- c. 自然経過で HBs 抗原が陰性化することはない
- d. 核酸アナログ製剤の長期投与によりウイルスの完全排除が期待できる
- e. ワクチン接種を受けると HBc 抗体陽性でかつ HBs 抗体陰性となる

20. Child-Pugh 分類に含まれる項目はどれか

- a. アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)
- b. アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)
- c. プロトロンビン活性値 (PT)
- d. インドシアニングリーン 15 分停滞率 (ICGR15)
- e. アルファフエトプロテイン (AFP)

21. 日本における E 型肝炎について正しいのはどれか

- ① DNA ウイルスである
- ② 猪、鹿、豚との人畜共通感染症である
- ③ 診断には IgA 型 HEV 抗体が有用である
- ④ 日本には土着していない輸入感染症である
- ⑤ 臨床的には B 型肝炎に類似している

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

22. アルコール性肝障害について正しいのはどれか

- ① 同一飲酒量では女性飲酒者に比べ男性飲酒者に発病の頻度が高い
- ② ALT 優位のトランスアミナーゼ上昇を認めることが多い
- ③ 腹部単純 CT で肝は低吸収となることが多い
- ④ 治療は禁酒およびビタミン B6 の補給が大切である
- ⑤ ALDH2 遺伝子多型は発症や進行に関係する

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

23. 自己免疫性肝炎について誤っているのはどれか

- a. 発症年齢は 50 歳代を中心とした一峰性を示す
- b. LKM-1 抗体陽性例では若年発症することが多い
- c. 血清 IgM が高値となる
- d. 治療は副腎皮質ステロイドが第一選択である
- e. 適切な治療例の長期生存率は 10 年で 90%を上回る

24. 原発性胆汁性肝硬変（胆管炎）について誤っているのはどれか

- a. 男女比は 1 : 8 で圧倒的に女性に多い
- b. 無症候性症例は新規発症例の約 3 分の 2 である
- c. 約 90%の患者で抗ミトコンドリア M2 抗体が陽性である
- d. ウルソデオキシコール酸内服で多くは予後が良好である
- e. 肝移植の成績はウイルス性肝炎に比べ不良である

25. Wilson 病について正しいのはどれか

- a. 伴性劣性遺伝である
- b. 尿中の銅排泄量と重症度は相関する
- c. 血清銅は高値となる
- d. 神経症状では錐体路症状がよくみられる
- e. 非肝移植例では銅制限食は生涯継続する必要がある

26. 黄疸について誤っているのはどれか

- a. Gilbert 症候群では絶食を続けると血中ビリルビンが上昇する
- b. Gilbert 症候群では間接型優位のビリルビンが上昇する
- c. 新生児黄疸では主に抱合型ビリルビンが増加する
- d. Dubin-Johnson 症候群では黒色肝を呈する
- e. Crigler-Najjar 症候群は I、II 型ともに新生児期に発症する

27. 脂肪肝に関して正しいのはどれか

- a. 腹部超音波検査では肝内脈管の不明瞭化が認められる
- b. 非アルコール性脂肪性肝疾患に進展しない
- c. 肝小葉の 20%以上の細胞に脂肪沈着が認められる
- d. 腹部単純 CT 検査で CT 値の上昇が認められる
- e. 血液生化学検査で中性脂肪値が低下する

28. 肝膿瘍について正しいのはどれか

- a. 医療の進歩により医原性肝膿瘍の頻度が低下した
- b. 肝膿瘍の原因として胆管炎性が最も少ない
- c. 肝生検は確定診断に有用であることが多い
- d. アメーバ性肝膿瘍の 50%では粘血便や持続性下痢などの腸管症状を示す
- e. 胆管炎性肝膿瘍ではグラム陽性球菌が起炎菌となることが多い

29. 通常型肝細胞癌を示す画像所見として誤っているものはどれか

- a. 超音波検査で辺縁低エコー帯がみられる
- b. ソナゾイド造影超音波の Kupffer 相で欠損像を呈する
- c. 腹部造影 CT では動脈相で濃染し、平衡相で低吸収域を呈する
- d. Gd-EOB-DTPA 造影 MRI の肝細胞相で低信号を呈する
- e. 経動脈性門脈造影下 CT では高吸収域を呈する

30. 肝細胞癌について正しいのはどれか

- ① 罹患率は女性の方が男性より高い
 - ② C 型肝炎からの発癌は 5 割を占める
 - ③ B 型肝炎からの発癌は増加傾向にある
 - ④ 肝細胞癌は原発性肝癌の約 95%を占める
 - ⑤ 非アルコール性脂肪性肝炎からの発癌は増加傾向にある
- a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

31. Glisson（グリソン）鞘内に存在しないものを選べ

- a. 肝静脈
- b. 肝動脈
- c. 門脈
- d. 胆管
- e. リンパ管

32. 胆嚢壁の構造で欠如しているものを選べ

- ① 粘膜層
- ② 粘膜筋板
- ③ 粘膜下層
- ④ 固有筋層
- ⑤ 漿膜

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

33. BT-PABA 試験で活性を調べるのはどの酵素か

- a. リパーゼ
- b. キモトリプシン
- c. アミラーゼ
- d. エステラーゼ
- e. ホスホオリパーゼ

34. 急性胆管炎の際に認める、Charcot3 徴を選べ

- ① ショック
- ② 発熱
- ③ 黄疸
- ④ 腹痛
- ⑤ 意識障害

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

35. 自己免疫性膵炎について正しいものを選び

- ① 女性に多い傾向がある
- ② 主膵管が拡張する
- ③ 後腹膜線維症を合併する
- ④ ステロイド内服が有効である
- ⑤ 血清 IgA 値の測定が診断に有用である

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

36. 先天性胆道拡張症について正しいものを選び

- ① 画像検査で拡張した胆管を認める
- ② 膵胆管合流異常を認めることが多い
- ③ 肝細胞癌を合併しやすい
- ④ 高齢者に好発する
- ⑤ 外科的手術の適応である

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

37. 胆嚢結石について正しいものを選び

- ① 腹部超音波検査が診断に有用である
- ② 胆嚢炎の原因となる
- ③ コレステロール結石が最も多い
- ④ 総胆管結石の原因とならない
- ⑤ 中年男性に好発する

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

38. 急性閉塞性化膿性胆管炎に対する治療で正しいものを選び

- a. 胆管ドレナージ
- b. 抗菌薬を用いた保存的加療
- c. 経口胆石溶解剤投与
- d. 体外衝撃波結石破碎療法
- e. 腹腔鏡下胆嚢摘出術

39. 60 歳男性、眼球の黄染に気づき外来を受診した。血液検査では、直接型ビリルビン優位に総ビリルビン、肝胆道系酵素が上昇していた。腹部 CT では下部胆管が閉塞し、それより上流の胆管は拡張していた。考えられる疾患を下から選べ

- ① 肝細胞癌
- ② 急性肝炎
- ③ 乳頭部癌
- ④ 胆管癌
- ⑤ 膵癌

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

40. 原発性硬化性胆管炎について正しいものを選べ

- ① ERCP が診断に有用である
- ② ウルソデオキシコール酸が有効である
- ③ 女性に多い
- ④ 抗ミトコンドリア抗体が診断に有用である
- ⑤ 潰瘍性大腸炎を合併することが多い

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

41. 急性膵炎の原因で最も多いものを選べ

- a. 自己免疫性
- b. 特発性
- c. 胆石性
- d. 薬剤性
- e. アルコール性

42. 膵臓に腫瘍性病変を認めた。診断に有用な検査を選べ

- ① 超音波内視鏡
- ② 注腸造影検査
- ③ 上部消化管内視鏡
- ④ 腹部造影 CT
- ⑤ 内視鏡的逆行性膵胆管造影

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

43. 胆管癌の診断に最も有用な腫瘍マーカーを1つ選べ

- a. AFP
- b. CA19-9
- c. PSA
- d. CA125
- e. SCC

44. 膵内分泌腫瘍について正しいものを選べ

- ① 多発性内分泌腺腫症Ⅰ型が関連する可能性がある
- ② 外科的治療の適応がある
- ③ 機能性内分泌腫瘍の中では、インスリノーマが最も多い
- ④ 乏血性腫瘍である
- ⑤ 膵腫瘍全体の5%を占める

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

45. 膵外分泌機能不全の際に見られる症状を選べ

- ① 体重減少
- ② 下痢
- ③ 発熱
- ④ 腹痛
- ⑤ 臭いの強い便

a①②③ b①②⑤ c①④⑤ d②③④ e③④⑤

46. 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)の所見として誤っているものを1つ選べ

- a. 破碎赤血球
- b. 骨髓巨核球数正常
- c. 網状血小板比率増加
- d. 骨髓顆粒球/赤芽球比(M/E 比)正常
- e. 血小板結合性免疫グロブリン G(PAIG)高値

47. 25歳の男性。理学的にも紫斑なし。赤血球数 495 万/ μ L、白血球数 5800/ μ L、血小板数 2.5 万/ μ L。まずとるべき正しい初期対応を 1 つ選べ

- a. 骨髄検査を行う
- b. アスピリンを服用する
- c. 血小板機能検査を行う
- d. 末梢血液像を確認する
- e. 抗血小板抗体を調べる

48. 再生不良性貧血の検査所見について正しいものを 1 つ選べ

- a. 小球性低色素性貧血を呈する
- b. 末梢血では芽球が増加している
- c. 骨髄の造血細胞は増加している
- d. 末梢血の好中球数は減少している
- e. 血清フェリチンは減少している

49. 骨髄異形成症候群(MDS)について、正しいものの組合せを 1 つ選べ

- ① 5 番染色体長腕欠失を伴う MDS ではレナリドマイドも選択される
- ② 若年の高リスク症例では、同種造血幹細胞移植を検討する
- ③ 芽球が少ない症例での初回の標準治療は、急性骨髄性白血病に準じる
- ④ 7 番染色体の異常は、予後良好因子である
- ⑤ 急性骨髄性白血病への移行は稀である

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

50. 急性白血病に治療の際に一般的に用いる支持療法について適当ではないものの組み合わせを 1 つ選べ

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ① フルコナゾール | － アスペルギルス肺真菌症予防 |
| ② ニューロキニン受容体(NK-1)阻害剤 | － 嘔吐・嘔気予防 |
| ③ ニューキノロン系抗菌剤 | － 細菌感染予防 |
| ④ トロンボモデュリン製剤 | － DIC 治療 |
| ⑤ 経口バンコマイシン | － MRSA 肺炎 |

a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

51. 一般に第1寛解期の同種造血幹細胞移植の適応として、適当ではないものの組合せを1つ選べ

- ① Ph 染色体陽性急性リンパ性白血病
 - ② 骨髄異形成症候群(MDS)から移行した急性骨髄性白血病
 - ③ t(15;17)陽性急性前骨髄球性白血病
 - ④ t(8;21)陽性急性骨髄性白血病
 - ⑤ 初診時白血球 12 万の Ph 染色体陰性急性リンパ性白血病
- a①② b①⑤ c②③ d③④ e④⑤

52. 急性リンパ性白血病(ALL)について、誤っているものを1つ選べ

- a. t(9;22)染色体転座を有する場合は、チロシンキナーゼ阻害薬を使用する
- b. 小児 ALL の治療成績は成人 ALL に比べて一般に良好である
- c. ALL では中枢神経浸潤が起りやすいので、メソトレキセート髄注などによって中枢神経浸潤の予防を行う
- d. 高リスク群の若年成人 ALL の第1寛解期では、HLA 一致血縁/非血縁ドナーがいれば同種造血幹細胞移植をすすめる
- e. 標準療法はアンスラサイクリン+キロサイドの 7+3 療法である

53. 慢性期慢性骨髄性白血病について誤っているものを1つ選べ

- a. 白血病裂孔を認めない
- b. NAP スコアは低値である
- c. 治療の第1選択は同種造血幹細胞移植である
- d. PCR 検査は治療効果の判定に用いることができる
- e. 好塩基球が増加する

54. 慢性骨髄性白血病の治療に関して誤っているものを1つ選べ

- a. アルキル化薬（ブスルファン）は白血球数をコントロールはできるが、延命効果は乏しい
- b. 急性転化期を来した症例は、同種造血幹細胞移植を考慮する
- c. イマチニブの治療に抵抗性となった場合、Ab1 遺伝子の変異を検査する
- d. イマチニブの主な副作用に筋肉痛がある
- e. チロシンキナーゼ阻害剤で一定の効果が得られたら、二次性発癌回避のため TKIs は可及的速やかに中止する

55. 悪性リンパ腫に関して誤っているものを1つ選べ

- a. 有痛性のリンパ節腫脹を認めることが多い
- b. 我が国におけるホジキンリンパ腫の多くは、B細胞性リンパ腫である
- c. 非ホジキンリンパ腫の多くは、B細胞性リンパ腫である
- d. 胃 MALT リンパ腫は、ピロリ菌の除菌により軽快することが多い
- e. 新 WHO 分類は、病理組織検査、細胞表面形質、染色体・遺伝子検査を結合して判断する

56. 悪性リンパ腫に対する治療について正しいものを1つ選べ

- a. 成人 T 細胞性白血病にリツキシマブは有効である
- b. 低悪性度 B 細胞性リンパ腫の治療目標は完治である
- c. アントラサイクリンの用量制限毒性は末梢神経障害である
- d. びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の標準療法は造血幹細胞移植である
- e. 腫瘍崩壊症候群にはラスブリカーゼが有効である

57. ホジキンリンパ腫について誤っているものを1つ選べ

- a. Reed-Sternberg 細胞がみられる
- b. 縦隔に病変が生じる事が多い
- c. 再発例には、造血幹細胞移植が有効である
- d. 進行期では標準治療として放射線照射を行う
- e. 発症年齢のピークは二峰性である

58. HTLV-1 ウイルスおよび成人 T 細胞白血病・リンパ腫に関して正しいものを1つ選べ

- a. HTLV-1 ウイルスの主な感染経路は、飛沫感染である
- b. HTLV-1 ウイルスのキャリアは、全国で約 1 万人とされている
- c. HTLV-1 ウイルスのキャリアの約半数が、生涯に成人 T 細胞白血病・リンパ腫を発症する
- d. 成人 T 細胞白血病・リンパ腫の患者は、東北地方に多い
- e. 成人 T 細胞白血病・リンパ腫の急性型は、予後は極めて不良である

59. 多発性骨髄腫の治療について、誤っているものを1つ選べ

- a. 症状のない早期での治療開始が望ましい
- b. 比較的若年で臓器障害のない患者は自家移植を目指した治療を行う
- c. 血清 Free light chain は、治療効果判定のマーカーとなる
- d. ビスホスホネートは多発性骨髄腫による骨病変を改善させる
- e. 初回の標準治療はボルテゾミブを含む治療が選ばれることが多い

60. 抗 HIV 療法について正しいものを 1 つ選べ

- a. 治療は副作用が多いため、CD4 の数が $200/\mu\text{L}$ 未満になってから開始するのがよい
- b. 抗 HIV 療法によって HIV-RNA が検出限界未満になれば、治療は終了することができる
- c. 治療開始後に免疫再構築症候群を生じたら、抗 HIV 療法は原則中断する
- d. 急性 HIV 感染症の時期での治療介入ができれば完治に導く確率が高い
- e. 抗 HIV 療法を開始しても、CD4 の数が回復するまでは日和見感染症の予防治療を継続する